

今回ご意見をいただきたいポイント

平成31年度は、みえ県民カビジョン策定（H24.4）から8年目、第二次行動計画の最終年度であり、次期ビジョンまたは、次期行動計画の策定を行う年にあたります。また、県の各施策に関連する個別計画（「三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略」、「三重県教育ビジョン」、「三重県教育大綱」、「希望がかなうみえ 子どもスマイルプラン」、「三重県観光振興基本計画」等）についても、見直す予定です。

みえ県民カビジョン策定後、その当時には想定していなかった、次のような国内外の動きなどを捉えると、県民生活や地域社会を取り巻く環境や社会経済状況が7年前から大きく変化していると考えます。

- ① 生産年齢人口の減少に伴う人手不足への対応に向けた、生産性革命や働き方改革
- ② 女性や高齢者、障がい者など、誰もが生きがいを感じられる一億総活躍社会の推進
- ③ 2030年に向けて持続可能な社会を目指すSDGsの推進
- ④ 平均寿命の延伸による人生100年時代構想の推進
- ⑤ AIやIoTなどのICTの革新によるSociety5.0の実現に向けた動き

第二次行動計画の次の計画（次期ビジョンを含む）の策定を見据え、三重県を取り巻く現状をあらためて捉え直し、今後の県政の中長期的な政策展開の推進にあたって大局的な視点からご意見をいただきたい。

ポイント1

三重県が今後中長期的な戦略である次期計画を策定するにあたって、どのような視点を重視し、どのような切り口やキーワードを取り入れていくべきか。

・ビジョン策定時以降の県を取り巻く社会経済状況の推移を表すデータと、幸福実感指標等、県民意識の推移を表すデータを参考にお示ししています。

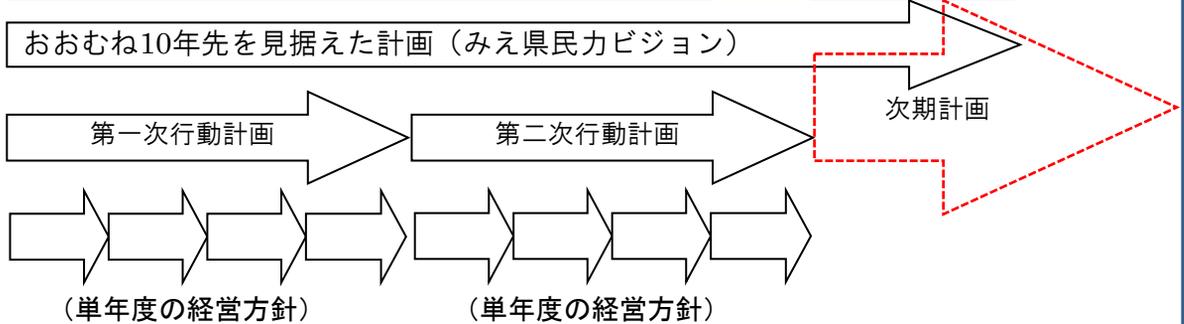
ポイント2

2015年に国連サミットで採択されたSDGsについて、国は2016年にSDGs推進本部を設置し、2018年には「拡大版SDGsアクションプラン2018」を策定した。その中で、「SDGsの達成に向けた取組は、地方創生の実現に資するため、その取組の推進が重要」としている。

本県における地方創生の実現に向けて、SDGsの考え方をどのように捉え、取り入れていくべきか。

(参考1) 現行ビジョン・行動計画と次期計画の関係

2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33



(参考2) SDGs

Sustainable Development Goals の略。平成27年9月の国連サミットで採択された平成42年を期限とする先進国を含む国際社会全体の17の開発目標。全ての関係者(先進国、途上国、民間企業、NGO、有識者等)の役割を重視し、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指して、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むもの。また、「持続可能な開発目標(SDGs)実施指針」(平成28年12月22日第2回持続可能な開発目標(SDGs)推進本部決定)において、政府全体及び関係府省庁における各種計画や戦略、方針の策定や改訂に当たっては、SDGsを主流化(SDGsの要素を最大限反映)することとされている。

(「まち・ひと・しごと創生基本方針2018」(平成30年6月15日 まち・ひと・しごと創生本部決定)より抜粋)